

令和元年度事業計画書

1 方針

福岡県造園協会は、公益社団法人として設立目的である「環境緑化に係る造園技術の向上と普及を促進し、安全、安心の社会づくりに寄与する」ため、先人達が守ってきた自然、風土、景観を大切にす旨の趣旨を尊重し、次の事業を実施していく。

令和元年度は、昨年度に引き続き、「県民の生活環境に潤いや安らぎを感じて頂くため」、普及啓発事業、環境緑化事業、森林づくり事業、研究指導事業の4つの分野で公益目的事業を積極的に展開するとともに、併せて事業に係る財源の確保に努めていくものとする。

2 事業内容

(1) 公益目的事業 予算額 8,020,000円

○ 公1事業 普及啓発・環境緑化・森林づくり・研究指導等事業

① 普及啓発事業 予算額 1,494,000円

造園技術は、公園の整備や管理にとどまらず、街路樹の剪定、多自然川づくり、屋上緑化、壁面緑化等で地域の環境緑化や自然の景観づくりに貢献している。

古来から造園に携わる者は、地域の気候や風土に合った樹木を選択して育成し、自然環境の保全に取り組んできたところである。

このため当協会では、広報誌を年2回発行し、活動内容の紹介や研修会等の案内を通じて、造園技術が果たす役割の普及啓発に努めている。

編集を担当する当協会の広報委員会は、造園技能士、植栽基盤診断士、街路樹診断士等、専門資格を有する会員で構成され、初心者から経験者まで幅広い層に受け入れられるように内容を吟味している。

広報誌は、平成31年新春号で42号を数え、九州各県、県庁関係課、県出先機関、県内市町村、造園学会等に配布している。

・令和元年度 A4版8ページ 夏季号2000部、新春号2000部

② 環境緑化事業 予算額 1,054,000円

環境緑化に関する知識の普及を図るため、老若男女、初心者から経験者まで幅広い層を参加対象とした研修会、講演会を開催する。

広報誌やホームページ等で参加希望者を募っている。

a サクラ再生研修会

県内各地のサクラは戦後復興のシンボルとして植栽されたが、ソメイヨシノの寿命は60年程度であり、樹盛が衰退している状況にある。

このため、サクラの現状と再生に係る研修会を実施している。

b 講演会の開催

外部講師を招いて環境緑化に関する講演会を実施する。

c 環境緑化に対する相談の受付と回答

樹木の植栽及び伐採方法、剪定の時期及び方法等に関する相談を、電話やメールで受付、回答している。

なお、現地確認の依頼があった場合には、当協会の技術委員会が対応している。

③ 森林づくり事業

予算額 2,446,000円

a 植栽ボランティア事業

「安全、安心の社会づくりに寄与する」ため、森林や公園での植栽事業を実施することで、地域の自然、風土、景観を守ることに努めている。

令和元年度は、県内2カ所で森林環境教育、植栽のボランティア活動を行う。

ボランティア事業は、植栽を予定する森林や公園の近隣にある小学校を誘致することで実施する。

- ・薬王寺水辺公園、小野小学校（古賀市）（令和元年9月、参加者100名を予定）
- ・笠城ダム公園、穎田小学校（飯塚市）（令和元年10月、参加者100名を予定）

b サクラ再生ボランティア

平成20年度から県内各地のサクラの名所（久留米市の発心公園、北九州市の鱒淵ダム、豊前市の天地山公園、朝倉市の甘木公園、久留米市上津小学校裏山、飯塚市八木山峠）のサクラ再生ボランティアを行っており、サクラ再生個所の土壌についても、当協会の樹木医、植栽基盤診断士が調査を行う。

c 西公園のサクラ再生ボランティア

西公園のサクラの状況が悪いため、福岡北ロータリークラブと共同で平成22年度から継続してサクラ再生事業に取り組んでいる。西公園に隣接する福岡教育大学附属小学校の生徒達の協力により、サクラの植栽を行っている。

d 未利用荒廃森林を利用した観光スポットの設置

福岡市西区の飯盛山に、西日本短期大学の学生と共同で眺望広場を設置しており、当協会会員が維持・管理を継続的に実施している。

④ 研究指導事業 予算額 3,026,000円

a 県内の街路樹や公園の樹木の調査

県内の街路樹や公園の樹木について、当協会の樹木医や植栽基盤診断士等の専門家が、樹木の状態や土壌について調査を実施する。

b 自然豊かな福岡県づくり推進協議会の活動

従来、環境緑化事業は「都市公園整備事業」「街路樹整備事業」「壁面緑化事業」「屋上緑化事業」など、点として緑化を推進してきた。自然の景観や生物の多様性を守るためには、「河川の上流から下流まで」といった面としてとらえて緑化を推進していくことが必要である。

そのため、平成24年4月1日「自然豊かな福岡県づくり推進協議会」を設立し、多くの研究者や樹木医等をメンバーとして、福岡の自然を守る施策を検討している。

c 松枯れ防除対策技術研修会

近年、北部九州一帯の海岸線の松原が、マツノザイセンチュウによって深刻な被害を受けている。海岸線付近の住民生活に支障が生ずる恐れがあるため、当協会の樹木医を講師として、松枯れ被害の状況と防除実技について、行政機関、関係団体、一般県民を対象に研修を行う。

(2) 収益事業等 予算額 152,000円

○ 収1事業 公園管理技術協力事業 予算額 52,000円

当協会の会員を含む3社で共同企業体を組織し、国営海の中道海浜公園の植物管理業務を受注している。

当協会は、この植物管理業務に対し技術協力を行っている。

○ その他の事業（相互扶助等事業） 予算額 100,000円
・緑のつどい

(3) 法人会計 予算額 4,861,000円

令和元年度資金調達及び設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込みについて

期中に借入の予定はありません。

(2) 設備投資の見込みについて

期中に設備投資の予定はありません。